

■ 蔬菜

主産地形成をめざして

長沼地区農業改良普及所

増田 忠 一

食生活改善により、蔬菜の需要はとくに伸長著しいものがあり、その種類も数多い。市場出しの有利な都市近郊の米穀生産地帯では、一部蔬菜專業に切换え、協業体系でもって経営し、その安定を計っている。

夕張郡長沼町は、札幌、苫小牧の消費地に近く、蔬菜主産地形成にと、目ざましい発展を示しているが、今回その状況を長沼地区農業改良普及所、増田忠一氏より寄せられたのでここに御紹介します。(編集部)

はじめに

本地区は空知の南端に位し水田約七、〇〇〇畝、畑三、〇〇〇畝を有する米雑穀生産地帯であるが、稲作地帯の経営はともかくとして畑作地帯の主要作物に対する価格の不安定、貿易の自由化に伴う農産物価格の下落等著しく、その影響は数少ない当町畑作農家にも大きな打撃を与え、経営不振、要再建農家をみるに至ったことは誠に憂慮に堪えない。かかる現況において畑作経営の振興を図るはもちろんのこと、経営の安定と、生活の向上へと緊急にその対策を講ぜねばならない。幸い当町は大消費地(札幌―苫小牧)に近隣しているほか、札幌―長沼間の道路の完備とともに将来蔬菜園芸作物の大供給地として、特に有望的な地理条件を備えている。一方、農業基本法に示されたごとく家畜、蔬菜園芸、果樹は農家の

生長財の一つとしてこれを推奨、道及び町村においてもこれに呼応し目下この振興に対し検討中でもある。このように時代の要請と本町の自然的、地理的条件を生かし、新しい蔬菜園芸の主産地を形成すべく目下その具体的実施要綱を作成しつつあり、以下の概要を記してみることになります。

一 現在の畑作経営の中に

どのようにして蔬菜類を導入するか

当町の畑作農家の一戸当たり平均耕作面積は五・五畝で空知管内としては比較的大きい方である。しかし中には七〜一〇畝の規模を持つ農家もいて、労力的には不足を来している現況である。

このような状況の中に蔬菜類を導入するには先ずもって労力対策を考慮する必要がある。即ち蔬菜類を一〇〜一五畝作付

するとすれば相当にこの方面に労力が費され、従来耕作されていた穀類には全く手が廻らないという事態が起るのであり、そこで私達はこの打開策として、労力の必要としない作物、牧草類を作付するか放牧地にして、肉牛であるアーデンアンガスか和牛を放牧し労力をかけなくても収入のある方法を考えてはどうかと……。

しかしこの方法に踏み切る場合には肉牛の導入のため相当の資金を要するわけで、これに対し町や農協では融資や補助の施策を考慮中であるし、今春にはオーストラリアからアーデンアンガスが一〇〇頭余輸入されることになっている。そのほかランドレース(豚)、ロームニマツシュ(綿羊)の導入も併せ行なうことになっている。

また、これら家畜の導入を図られない農家に対しては従来通り穀類を作付するとしてもこの作業を効率化するため大農具の共同利用を図るよう普及している。現在当町の畑作地帯には大型トラクターとしてフアーガソン、ランツ等が一台入りそれぞれ労力の節減に働いている。

以上のように一方において収入の増大を図る作物があつても労力が非常に必要となってくるので総合的な収入は減らさずに一方において粗放的な経営のできるものを取り入れて行く方法を探っているのではありません。

つぎに、当町の畑作地帯というのは由仁町を境とした馬追山麓一帯がそうで一部には夕張川流域の沖積土帯が僅かにあるがそのほかは礫前系の火山灰から成る火山性土壌地帯と洪積土帯とに大別される地帯で地味は至って低い。しかし今迄は農家の

土地改良に対する熱意もあつたか畑作物の反収は比較的高く、従来道で行なわれてきた各種多収獲共励会においても出品すれば必ず入賞するというように生産意欲も高く、また耕土改良にも熱心である。しかし今後蔬菜園芸作物を導入するとなれば更に一段と地力の維持増進に拍車をかけねば、消費者の喜ばれる良い農産物を生産することとはむずかしいので、トラクターを利用した深耕、心土耕、それに加えて輪作式の確立や、堆肥の増施、休閒地の設定や、緑肥の導入を図つてなお一層地力の培養に努めるよう努力しています。

また当町は積雪量は少ないが、案外融雪が遅く、加えて春先きの偏南々東の風は水稻蔬菜の育苗期間中、毎日のように強風が吹き、育苗は勿論諸種の農作業に致命的打撃を与えている現状である。そしてその対策として水稻地帯では耕地防風林として所要所に防風林を設置しているが、未だしの感がある。畑作地帯においても今後蔬菜栽培が取上げられるならばなんともしても防風の設備をしないことには主産地形成はむずかしいと、町及び蔬菜組合連合会ではこの対策として生垣用防風林の設置を呼びかけている次第であります。特に蔬菜は一般に高温を好む作物が多いので私達も部落農事懇談会に出向いた折には特にこの点を強調しているのであります。樹種としては応急的なものとして、エボタ、ネクンドカエデ、恒久的なものとしてはニオイヒバ等を奨励している。

その他蔬菜類は気温、地温の關係等にも影響するところが大きい、さらに重要なことは早天時における灌水設備の問題であ

ろ。馬追山麓は緩傾斜であるため沢水や、小川等の水をビニールパイプ等で容易に誘引できる可能性もある。これら地理的条件を生かして灌水設備を図るよう望んでいるのであります。

二 主産地形成への栽培技術研究と指導

当町の蔬菜栽培は日浅く僅か二カ年の経験よりなく誠に栽培技術は幼稚なものであって先進地の蔬菜地帯と伍して競合するなどは笑止千万であるが、しかし前述のごとく有利な地理的条件、交通が便利な位置に在るため相当の意気込みで目下技術研究に余念がない。

しかし需要に見合った蔬菜栽培を行なわなければならないことから、毎年農協及び連合会の責任者が消流の実態調査に府県に出かけたり、札幌中央卸売市場、苫小牧青果市場の関係者と懇談したり、消費者の要求しているもの、あるいはこれから需要の多くなるもの等を考慮に入れて毎年作付計画を樹立し各部落にある園芸耕作組合に指示しているのである。本年は以上のことと更には部落別、土壌別に勘案して部落毎の特産物を決める必要があるとのことから、それぞれ計画に見合わせて指示したがその達成のため組合員がこぞってこの研究に乗り出す等、その意気には敬服している次第である。

今、当町には各部落毎に園芸耕作組合が八組合あり、組合長の下に生産部と出荷部とが置かれて、それぞれ部長がいて、生産に対する栽培の研究、更に品質の統一を図るための自主的格付員も二〜三名おいて、

出廻期にはそれぞれ規格をつけて出荷するよう働きかけている。また栽培経験がないため早く一本立ちできるようにと天狗をなくする意味において、自主的に試験圃、研修圃等も設置するよう計画している。

一方、出荷部はそれぞれ出荷物の調整を図るとか包装の研究、更に重要なことは市場及び消費者の信用を得るためにはなんとして共選、共同出荷の体勢を図らねば先進蔬菜地帯と競合して行くことは無理であるとの見地からそのような働きを懸命に行なっている次第である。

耕作組合も現在栽培している人参、南瓜、スイートコーンから徐々に需要の多いもの、高収入を望めるものへの転換も考慮しており、本年からは将来の目標に向って、果菜類、葉菜類も相当栽培されるようになってきた。一方古くから栽培されている玉葱、食用百合も近年は周囲の栽培熱に刺激されて栽培意欲も高まり、自から玉葱研究会、食用百合組合を作って、有利に販売するための研究を怠っていない。即ち玉葱については生産を上るための栽培研究圃の設置や労力節減のための栽培法をとり上げコスト切下げに努力している。また食用百合についても品質の向上から各地の球根を集めて展示する外、病害虫の防除、収量の増加への研究も盛んで強い組織力を持っている。このように一部ではその作物毎の研究會や、組合があるように、将来は現在の各部落にある耕作組合もいずれは作物毎の研究會がグループにして栽培法の研究から出荷に至る迄の研究を自主的に実施するよう仕向けてゆきたいと考えている。

それから主産地形成を図るには生産され

る蔬菜が消費者においては年間常時に必要なので、それだけの品物を常時出荷するにはなんとしても周年栽培しなければならぬわけであるから、本年からこれらの点を考慮に入れた促成、半促成、抑制栽培も試みようとする。特に、果菜類、葉菜類における育苗は冬戸別々に育苗したのでは品質や収穫期にも相当の開きが生じ、市場の信用も失うこととなるので組織の中でビニールハウス等による共同育苗をなさしむるよう努力している。本年のビニールハウス設置予定は一〇棟余に及ぶものと思

う。このように部落単位の耕作組合の上に連合組織があつて、対外的なこと、貨車獲得から市場との連絡、作付計画、出荷の調整等を図り生産物を少しでも有利に販売しようとする努力しているほか、部落単位の集荷場の建設から、冷温倉庫の建設への働きかけも行なっている。また耕作組合が研究のために行なう展示圃、試験研修圃に対しても経費面についての助成をする等、意欲的なところをみせている。

また指導機関である町及び農業改良普及所といたしましても立地に即した栽培という観点からと将来に備えて主産地形成をめざす意図から以上の組織づくりと自主的活動を積極的に奨励しているほか、栽培の手引の配付やら、現地講習會、個別指導、更には試験展示圃を設けて栽培者の技術向上と生産の増加に努めている。また、生産者自体も果して蔬菜園芸を取り入れたら経営や経済が良くなるのかどうかと迷っているものも数あるわけで、この点十分な調査資料も持ち合せがないので、生産費調査を行

なうはもちろん、耕作組合単位とまで行かなくとも、できるだけ多くのモデル農家を設置して、栽培農家の研究の場とし、また、これから栽培しようとする農家への道しるべにいたしたいと考えているのであります。このモデル農家設置に対しても思い切った予算を計上しているのであります。

また一方、将来蔬菜園芸や家畜の導入によって経営を向上して行こうという次代を背負って立つ優秀な青年に対しては積極的に教育する必要があるとのことから本年からは先進地へ若干の青年を送り、ある期間その農家で起居を共にし栽培技術や、経営方法を身につけさせ帰町したならば本人の家はもちろんのこと、周囲の農家にも栽培方法を指導させるといふ波及的指導方法も考慮中である。

消流の面についてはPRを兼ねた園芸品評會の開催と即売會等を設け品質の向上に努める外、品質、包装の点についても考え方を改めるよう努力している次第です。

最後に以上のような考え方で主産地形成をめざしているのではありませんが、その前途に暗いものが横たわっている。その見逃せないもの一つとして、畑地帯に分散したネマトーダの棲息が近年特に目立って来たことあります。この対策には昨年より生産者に感心を持たせるほか、棲息範囲を予め調査しておく等手段を講じて参りましたが、本年はある耕作組合を集中的に防除するべく目下計画中であり今春農耕期前には是非防除をさせるべき準備中でありました。而してこのパイロット的防除によって一応確認させ今後は広くこれをなさしめ、多収、良質のものを生産するよう働きかけの考えでおります。(以上)